

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1. めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という『建学の精神』をもとに、学校教育を通じて地域社会からの信頼や期待に応えられる学園、生徒が何歳になっても誇りを持って語れる学園、教職員が生徒の満足を自らの喜びにできる学園づくりをめざす。

【生徒像】

- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけ、責任ある行動がとれる生徒
- 国際社会において活躍するために、たくましく生きる力を身につけた生徒

2. 中期的目標

「国公立大学進学実績の向上」という重点目標の達成をめざし、各部署・各学年で4月当初には活動方針を策定する。できる限り目標を数値化し、その目標を達成するための具体的な方策を立案する。11月に進捗状況、3月に目標達成状況（総括）を校務会議・職員会議で報告し、次年度への課題を明確にする。

1. 生徒指導を基盤にした学習指導と進路指導を確立する。

(1) 学力向上と進路実現

生徒が6年間の中で自らの進路目標を持ち、自己実現できる進路を獲得できるよう取り組む。

- ア. 進路指導に即した学習指導を展開し、学力を向上させて希望する進路を実現させる。
- イ. 教科会議を充実させ、授業内容の点検や指導法の研究を行い授業力向上に取り組む。
- ウ. 前期課程の段階から学問探究団「RYS」（論より証拠）や総合的な学習の時間「学芸ESD」を通して、自分の進路に対する意識を向上させる。前期課程3年生からどの進路を選ぶことがふさわしいかを考えさせ、後期課程4年生から文理選択を行う。
- エ. 後期課程での放課後講習、合宿講習、6年生での入試対策講座やセンター試験後の個別指導で、自学自習の習慣を身につけさせ、自己の進路を自らの力で切り開く姿勢を育成する。

(2) 基本的な生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的な生活習慣」の確立と大きな関係がある。すべての教育活動を通じ「人の話を聞ける生徒」「挨拶のできる生徒」「ルールを守れる生徒」の育成に努める。

- ア. コミュニケーション能力を育成し、正しい人間関係を構築することで、学校生活への満足度を高める。
- イ. いじめを許さず、生徒全員が安心して登校できる学校づくりをめざす。
- ウ. 校内および通学途中における服装の乱れをなくし、マナーを守ることのできる社会性を育成する。

(3) 社会性・協調性の育成

少子化・核家族化の影響で親の過保護・過干渉の中で育ってきた生徒たちは、自己中心的な性格になりがちであり、協調性や耐性に欠ける面がみられる。建学の精神にある社会に貢献できる人間を育成するための取り組みを教育活動全体の中で実施し、自己肯定感を高めていく。

- ア. 体育祭や文化祭等の行事や人権教育・土曜講座などの取組みを通して他者への思いやりや協調性、自分の意見を相手に伝える力（コミュニケーション能力）を育成する。
- イ. 限られた時間や施設での部活動だが、その中で持続力や耐性を養い、協調性を育成する。
- ウ. セレッソ大阪のボランティア活動やエコ活動を通して、社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成する。

2. 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

公立中学校と違い「校区という地域」を持たない完全6年一貫の本校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえる。

- ア. 三者面談や保護者会・進路説明会を通して学校生活の様子や卒業後の進路を保護者とともに考える中で、信頼関係を築いていく。
- イ. 進路ガイダンスを充実させ、生徒の進路希望を担当が十分把握し、保護者と生徒の願いを学校が受けとめることにより、信頼関係を築いていく。
- ウ. 学校生活の様子をホームページ等で情報発信する等、開かれた学校づくりを進めることで保護者との信頼関係を深める。

(2) 危機管理体制の確立

地球温暖化の影響から豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ発生するかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められる。

- ア. 避難訓練を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備える。
- イ. 学校として帰宅困難となる生徒が出た場合を想定し、保護者との連絡体制を整えていく。

【自己評価の結果と分析・学校協議会の意見】

□学力向上と進路実現

- ・本校は完全6年一貫教育で国立大学や有名私立大学の合格をめざす進学校で、学力向上が生徒・保護者の一番の願いである。授業アンケートの「学力向上への実感」が全体を通じて1回目から2回目と増加していることから、その効果が実感できている生徒が増えてきていると考えられる。全教室への電子黒板設置、無線Runの環境整備でよりわかりやすい授業を展開していることで成果をあげていると考えられる。
- ・6年一貫のカリキュラムで進めているが、途中でつまづいてしまうとそれが最後まで影響してしまうということが6年一貫校の弱点の一つでもある。生徒のモチベーションを6年間維持することは非常に難しいが、やはり教員の授業力を高め、生徒の理解度を高めていくことが重要な課題であるとともに個別指導も充実させる必要がある。
- ・学校評価保護者アンケートの「全科目にわたり学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている」という問いに対し、肯定回答は昨年度とほぼ同様に、前期課程45%、後期課程48%であり、留保回答がそれぞれ約13%を占める。目に見える成果を重視して判断する保護者が多いように思われる。
- ・教員の授業力向上に向け、次年度も年2回の授業評価アンケートを実施する。経年比較をしながら教員が自己分析をして授業力向上につなげるために、次年度から自己評価シートを提出させ指導助言する。
- ・保護者アンケート「進路指導は充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している」の肯定回答は、肯定回答は1年33%で学年が上がるにつれて増え、6年では77%である。同時に留保回答は学年が上がるにつれて減じている。6年間系統的に取り組む「国立大学合格支援プログラム」に基づく指導を更に充実させていく必要がある。また、将来を見据えた「RYS」などの取組みを通し、学年が進むにつれて、将来の夢や進路について考えるようになってきている。6年間をかけて大学進学を目指していく中で、将来を見据えることは重要なポイントである。前期課程の段階から進路に対する意識の向上を図るよう指導していくことが大切である。
- ・新大学入試改革の動向を見据え、内容の研修を深めるとともに、指導法の研究を進める必要がある。

□基本的生活習慣の確立

- ・各種調査から、基本的生活習慣と学力の伸びとは大きな相関関係があると報告されている。普段の生活の中で、時間を守る、服装や髪型などルールを守る、大きな声であいさつをする等、基本的生活習慣の確立が大切である。その根幹にあるのが、人の話を素直に聞く、自分の気持ちを自制するという心の育成である。遅刻指導や生活点検などの取り組みを継続して行い、定期的な二者面談で生徒理解に努めているが、まだまだ不十分である。
- ・保護者アンケートの「子どもに獲得させたい資質」という問いの回答として、「学力・知力」に次いで「自主自律の姿勢」「協調性・社会性」「将来を切り開いていく力」が上位を占めている。また、保護者アンケートの「生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果を挙げている」という問いの肯定回答は全体で55%という結果で、昨年度とほぼ同様である。例年、前期課程の生徒に人間関係のトラブルが多いという結果を真摯に受け止め、集団育成の観点を持ち生活指導を推進していくことが大きな課題である。

□社会性・協調性の育成

- ・すべての教育活動を通して社会性や協調性を育む取り組みを進める必要がある。社会性や協調性を育てるために様々な教育活動をキャリア教育の視点から見直す必要がある。現在行われている様々な活動がそれぞれの学年のキャリア発達の段階に応じた取り組みとなるように、あるいは、様々な活動が単発ではなく有機的な繋がりをもつように、部署間で連携し、横断的にその内容を検討する必要がある。
- ・取り組み開始から5年目を迎えた学問探究団「RYS」の取り組みは、生徒が社会に触れることで、将来のイメージが膨らみ、学習意欲も向上するという大きな成

学校協議会の意見

□学力向上と進路実現

- ・電子黒板が設置され、タブレットの導入も進められている。ICT教育の推進ということで、先生方も新しいことに取り組むのは大変だと思いますが頑張ってください。
- ・学力向上は、生徒のやる気をいかに喚起するかが大切だと考える。ICT機器を使い、生徒の興味や関心を引き出す授業を期待する。
- ・「国立大学合格支援プログラム」のリーフレットを作成し、それぞれの学年でのポイントを明確にしているのは大いに評価できる。
- ・進路実現に向けて6年間を見据えたより系統立てた取組みの充実が望まれる。今後、教員数も減る中でより効率的な指導が望まれる。
- ・高校入試を経験しないのは、メリットとデメリットの両面が考えられるが、3年生での先取り学習などを含めシラバスを保護者にもっと周知する必要がある。
- ・6年間は長いので、前期課程の中学生の段階では進路はまだまだ先だと思っている生徒が多いと思うが、意識を向上させる取組みを進めているのは良いことだと思う。
- ・50分の授業をいかに展開していくか。そのために、授業アンケートの結果を教員がしっかり自己分析することが大切である。次年度から、個々の教員に自己評価シートを提出させることは良いことだと思う。
- ・大学入試制度改革の動向を見据え、何がポイントなのか、しっかり研究・研修を積んで欲しい。
- ・自学自習の習慣をいかに身に付けさせるか。全体の雰囲気づくりが大切ではないか。管理自習室で夜遅くまで学習する生徒も増えてきているのは良いことだと思う。

□基本的生活習慣の確立

- ・基本的生活習慣の確立が、学力向上を含めすべて教育活動の基盤になるという考えは賛成である。校内では、ルールを守るという規範意識の醸成が不可欠である。社会に出るまでに、きっちり身に着けておくことが大切である。
- ・普段の生活の中で、時間を守る、あいさつをする等は家庭教育が占める割合も非常に高いと思う。家庭としっかり連携し取り組んで欲しい。特に、遅刻指導は家庭教育の占める割合が大きいのと思う。社会に出てからが心配である。
- ・思春期の6年間は心身ともに大きく成長する時期である。何でも一律にとらえるのではなく、発達段階に応じた指導が必要である。前期課程でトラブルが多いと聞くが、粘り強く心に寄り添う指導を行って欲しい。
- ・自主自律の育成には、生徒会活動や集会指導の充実が望まれる。また、豊かな人間性を育てるために、道徳教育にもっと取り組んで欲しい。

□社会性・協調性の育成

- ・志望大学に合格するのが大きな目標だと思うが、その先の将来も見据えた「RYS」や「ESD」の取組みは、キャリア教育の視点からも大いに評価できる。中等教育学校が積み上げてきた素晴らしい実践である。この取り組みを生徒募集につなげて欲しい。
- ・大学入試改革でも、単に知識だけでなく、思考力や判断力などが問われ、入試形態も大きく変わると言われている。プレ

<p>果を上げている。例年以上に充実したプログラムを実施し、のべ646名、実参加者307名で全校生徒の約半数が参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セレッソ大阪のボランティア活動は、計13回、のべ290名が参加。年々登録を希望する生徒が増え、取り組みが定着している。また、サポーターマッチではRYSとのコラボ企画「ユニクロ服のチカラプロジェクト」を実施している。 ・土曜講座、イングリッシュキャンプ等が、新しく取り組んだプログラムである。 ・行事は、文化祭と体育祭を中等祭として2日連続で実施した。文化祭・マラソン大会とともに縦割りで行う体育祭を通して学年を超えた一体感を生み出し、成果を上げた。また、本校唯一のクラス対抗の行事、コーラスコンクールも大いに盛り上がったが、生徒数減少に伴う行事の見直し・精選が必要である。 <p>□保護者への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学・高校という思春期真っ只中の生徒が6年間本校で過ごす中で、いかに学校生活における満足度を高めていくか、保護者や生徒の期待に応えられるかが学校としての大きな課題である。 ・完全6年一貫の本校への期待をしっかりと受け止め、教育活動に従事しなければならない。そのためにも一人一人の生徒の心に寄り添う指導を推進する必要がある。保護者アンケートの「担任は相談しやすく誠実に対応してくれる」という問いに対し、85%の肯定回答があり、昨年を上回っている。まだまだ十分ではないが、規模の小さな学校で、教員と生徒の関係は非常に重要である。本校は創立当初より教員と生徒の距離が近いことが特色の一つである。そうした良い面を生かし、生徒の満足度が高まるよう努力していく必要がある。 ・私立学校は、公立中学校のように校区を持たないため、保護者への情報発信が信頼関係を築いていくうえで大切な要素となってくる。保護者アンケートの「ホームページの充実」についての問いに対し約70%の肯定回答があり、年々上がっている。留保回答は10%で昨年より減じている。ホームページの内容を一層充実させ、学校の様子・生徒の活躍している姿をタイムリーにわかりやすく伝える工夫をする必要がある。 <p>□危機管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同避難訓練を通して集団で避難するときの心構えを伝えた。また、3年生は住吉消防署の協力を得て防災訓練を実施した。 ・本校は大和川の南からの通学者が約30%在籍し、豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難になる生徒が多く出ることも予想される。昨年度より各自が防災セットを購入し教室に保管している。 	<p>ゼンテーションやディベート等で、その力をつけてくれると期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいプログラムの土曜講座やイングリッシュキャンプは大きい評価できる。1・2年生からの段階から、集団を意識させる指導は必要である。教科の学習以外で、様々な力を身につけて欲しい。 ・ボランティア活動は、社会性や協調性の育成に大変有効である。自ら手を挙げ参加する生徒を多く育てて欲しい。 ・1年生から6年生までがひとつになって取り組む学校行事は、中等教育学校の大きな特徴である。生徒数が減っていくが継続して欲しい。 <p>□保護者への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページがタイムリーに更新されるので、学校での様子がよくわかる。一層の充実を望む。 ・保護者連絡を密にするとともに、学校の取り組み等をどんどん情報発信することが大切である。 ・保護者アンケート「担任は誠実に対応してくれる」という問いの肯定回答が85%を超えているのは評価できる。家庭との連携は電話が中心になるが、特に前期課程では必要に応じ家庭訪問も必要ではないか。 ・保護者アンケート「この学校に入れてよかった」という問いの肯定回答が目標の70%に達していない。生徒と保護者に丁寧な対応をしているか、早期対応をしているか、事前・事後の指導はどうか等、もう一度点検を行う必要があるのではないか。 <p>□危機管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制は常に万全を期すことが求められる。引き続き各教室に防災セットを配備しているのは良いことだと思う。また、それらのセットにいたずらがないのは、生徒たちの防災に対する意識が上がってきているからだと思う。
---	--

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力向上と進路実現	1. 学力向上と進路実現に向けた取り組みの強化	本校は創立当初より6年間で学力を身につけ、国公立大学・有名私立大学をめざしてきた。自らの進路を見つけ、実現していくことが、生徒・保護者はもちろんのこと、我々教員の願いでもある。	(1) 授業アンケート「理解度」の指数(肯定回答ー否定回答)を65%以上にする。	私立の中高一貫校にとって、しっかりとした目標を持ち、6年間で確かな学力を身につけることが、自らの進路実現につながっていく。
	(1) 生徒による授業満足度の増大	多感な中高時代を本校で過ごしていく中で、着実に学力をつけていくことが目標である。そのためには我々教員には「きめ細かな学習指導」が求められる。		そのためにも、生徒が「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を体感できる授業づくりが大切である。
	(2) 自学自習の態度を育成し、意欲的に学習する姿勢を身につける。	(1) 進路実現のために「わかる授業」を生徒たちに保障する。		○アンケート1 「先生の授業(説明や指示)はわかりやすいですか」の指標(授業アンケート2回目)
(3) 希望進路の実現に寄与する。			前期課程: 全体63% 1年58% 2年54% 3年59% 後期課程: 全体55% 4年57% 5年68% 6年54%	
				1回目に比べほぼ同様の結果である。肯定回答は、どの学年も約80%であり、前期課程からの基礎学力をしっかりと定着させる取組みを進める必要がある。また、生徒のコメントに、2学期よりスタートした電子黒板を使った授業に興味関心を引くという内容が多く見られた。29年度新入生からタブレットを一人一台持たせ授業で活用することになる。今後、教員もICT

学力向上と進路実現		<p>(2) 多様な進路希望に対応した学習指導を充実する。</p> <p>(3) 生徒の夢の実現をともに喜ぶ教師集団をめざす。</p>	<p>(2) 授業アンケート「意欲度」の指数（肯定回答－否定回答）を60%以上にする。</p> <p>(3) 授業アンケート「学力向上度」の指数（肯定回答－否定回答）を40%以上にする。</p> <p>(4) 保護者アンケート「進路指導」の肯定回答を60%以上とする。</p> <p>(5) 「管理自習室」の利用を促進する。</p>	<p>機器を使った授業づくりの研修を深める必要がある。教科会議を充実させ、指導法の工夫改善に努める。</p> <p>○アンケート2「あなたにとって先生の授業は意欲的に取り組める授業ですか」の指数（授業アンケート2回目）</p> <table border="1"> <tr> <td>前期課程：全体 54% 1年 58% 2年 49% 3年 42%</td> </tr> <tr> <td>後期課程：全体 57% 4年 51% 5年 50% 6年 73%</td> </tr> </table> <p>1回目に比べ、1年が15ポイント下がり、6年が10ポイント上がっている。1年は学習内容が難しくなってきたことが一因と思われる。また、6年は進路に向けて意欲的に取り組んでいる結果である。大学受験が近づき当然と言えばそうあるが、この数字をさらに高める努力は必要である。すべての学年で否定回答をしている約2割の生徒の指導が大きな課題である。授業の組み立てや進め方など、生徒の理解を深めていく努力が必要である。</p> <p>○アンケート3「先生の授業をうけることで、あなたの学力や知識に変化を感じましたか」の指数（授業アンケート2回目）</p> <table border="1"> <tr> <td>前期課程：全体 24% 1年 32% 2年 18% 3年 24%</td> </tr> <tr> <td>後期課程：全体 31% 4年 22% 5年 32% 6年 44%</td> </tr> </table> <p>1回目に比べ、全体の指数が前期課程は5ポイント下がり、後期課程は3ポイント上がっている。特に、6年生が18ポイント上がっている。進路の本番目前ということが考えられるが、もっと早い時期からの継続した指導が望まれる。また、前期課程で基礎学力の定着に向け、興味関心を引く授業づくりを心掛ける。授業第一主義でさらに学習効果を上げるよう、指導法の工夫改善に努める。</p> <p>○アンケート4「進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している」の肯定回答した保護者</p> <table border="1"> <tr> <td>前期課程：全体 40% 1年 33% 2年 38% 3年 49%</td> </tr> <tr> <td>後期課程：全体 61% 4年 55% 5年 51% 6年 77%</td> </tr> </table> <p>昨年とほぼ同様の結果で、学年が上がるにつれて肯定回答が増えている。後期課程全体では、目標数値をクリアしている。後期課程に入り自覚が高まったものと考えられ、進路指導の取組みがこの数字に結びついたと考えられる。前期課程の留保回答は約3割である。早い段階から、有効な情報を提供していくなど、大学受験を意識づけると共に、職業感を意識できるよう、「RYS」「ESD」などの取組みを充実させる。</p> <p>○今年度より自学自習の習慣を身に着けることを目的に「管理自習室」を開設した。後期課程は21:00まで利用できる。開設日数226日、のべ利用者数3786名で半数近くが6年生であった。また、卒業生チューターはのべ80日、主に質問対応にあたった。</p>	前期課程：全体 54% 1年 58% 2年 49% 3年 42%	後期課程：全体 57% 4年 51% 5年 50% 6年 73%	前期課程：全体 24% 1年 32% 2年 18% 3年 24%	後期課程：全体 31% 4年 22% 5年 32% 6年 44%	前期課程：全体 40% 1年 33% 2年 38% 3年 49%	後期課程：全体 61% 4年 55% 5年 51% 6年 77%
	前期課程：全体 54% 1年 58% 2年 49% 3年 42%									
後期課程：全体 57% 4年 51% 5年 50% 6年 73%										
前期課程：全体 24% 1年 32% 2年 18% 3年 24%										
後期課程：全体 31% 4年 22% 5年 32% 6年 44%										
前期課程：全体 40% 1年 33% 2年 38% 3年 49%										
後期課程：全体 61% 4年 55% 5年 51% 6年 77%										
基本的な生活習慣の確立	<p>2. 規律ある学校生活の確立</p> <p>(1) 規範意識と自律性の育成</p> <p>(2) 人間関係の構築</p>	<p>中高6年間を本校で過ごす中で、子どもから大人への成長過程が見られる。身体も心も大きく成長する時期であり、集団の中で規範意識を高め、人間関係を構築する態度を身に着けさせたい。</p> <p>常に教員は生徒の心に寄り添い、公平な目で生徒を指導できるようにする。また、相手の立場を踏</p>	<p>(1) 保護者アンケート「生徒指導」の肯定回答を60%以上にする。</p>	<p>生徒にとって学級こそ学校生活の居場所であり、落ち着いた雰囲気と規律性を保っていないと、目標の達成にはならない。</p> <p>○アンケート1「生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果を挙げている」の肯定回答をした保護者</p> <table border="1"> <tr> <td>前期課程：全体 55% 1年 63% 2年 54% 3年 48%</td> </tr> <tr> <td>後期課程：全体 54% 4年 49% 5年 46% 6年 65%</td> </tr> </table> <p>全体は55%で、昨年より6ポイント下がっている。学</p>	前期課程：全体 55% 1年 63% 2年 54% 3年 48%	後期課程：全体 54% 4年 49% 5年 46% 6年 65%				
前期課程：全体 55% 1年 63% 2年 54% 3年 48%										
後期課程：全体 54% 4年 49% 5年 46% 6年 65%										

<p>基本的 生活 習慣 の 確 立</p>		<p>まえた適切なコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>一日の大半を過ごす教室の管理は学級経営に欠かせないもので、美化・清掃に心がける。</p> <p>(1) ガイダンスに定められた事項をきっちり守れるよう、常に意識をさせる。ルールに沿って学校生活が円滑に進むよう指導する。</p> <p>(2) 「いじめ事象」に関しては、いじめ防止対策委員会を組織する。いじめアンケートを実施することで、「いじめ」を抑止するとともに「いじめ事象」には担任だけでなく、教職員全体の問題として取り組む体制をつくる。</p> <p>(3) 教室の学習環境を整備するため、清掃・美化活動を徹底する。</p>	<p>(2) 個々の生徒理解に努め、学校生活に対する生徒の満足度を高める。</p> <p>(3) 保護者アンケート「公平な対応」の肯定回答を80%以上にする。</p> <p>(4) 教室の環境整備に努める。</p>	<p>年ごとで差が見られるが、全般に落ち着いた学習環境を維持することを大切である。特に、前期課程では、集団育成の視点を持ち、生徒のコミュニケーション力や問題解決力を高めていく必要がある。</p> <p>○生徒が、いじめ等の悩みを打ちあけやすい信頼関係を構築することが必要である。学期に1回、生徒に対するいじめアンケートを実施するとともに、定期的に担任との二者面談を行った。相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション能力を育成し、言葉の行き違いから「いじめ事象」に発展しないよう、考えて行動する習慣の確立をめざす。「いじめ事象」が発生した場合は、いじめ防止対策委員会で協議し厳格に対応していく。また、学級で起こる様々な問題について生徒に考えさせ、クラス全体でいじめ防止に取り組ませる指導も大切である。</p> <p>人間関係で不安を持っている生徒に対しては、学校カウンセラーとも相談し、対処するように努めている。</p> <p>○アンケート2「担任は相談しやすく誠実に対応してくれる」の肯定回答をした保護者</p> <p>前期課程：全体84% 1年79% 2年86% 3年87% 後期課程：全体83% 4年84% 5年77% 6年87%</p> <p>学校生活において、生徒と教員との信頼関係は非常に大きい。全体は84%で昨年を3ポイント上回っているが、1年と5年は目標指標を少し下回った。概ね教員との関係は良好のようである。今後も教員が分け隔てなく生徒に接し、生徒の人間関係が構築されるよう研鑽を積んでいく。</p> <p>○規律ある学校生活、学習環境の確保には教室の美化は欠かすことはできない。掲示物、私物の整理など日々クラスで指導を行っており、担任・学年を中心に教室の美化を強化し、学習環境を整えていく努力が必要である。</p>
<p>社会性・ 協調性 の 育 成</p>	<p>3. 社会性・協調性の育成</p> <p>(1) ボランティア活動の充実</p> <p>(2) クラブ活動の充実</p> <p>(3) 行事の精選</p>	<p>(1) 地域貢献活動やボランティア活動に取り組み、豊かな社会性の育成を図る。</p> <p>(2) クラブ活動や学校行事に関しても、様々な活動を通して生徒の協調性を高める。</p>	<p>(1) ボランティア活動にも参加を促す。</p> <p>(2) クラブ活動に関しては、まずは勉学を中心に工夫して活動する。</p> <p>(3) 学校行事を通して生徒の協調性を高めていく。</p>	<p>○本学園は、セレッソ大阪とパートナーシップを結んでいる。セレッソ大阪とのボランティア活動では登録する生徒が年々増えている。今年度は、計13回、のべ290名が参加した。また、7月のサポーターズマッチでは「ユニクロ服のチカラプロジェクト」を昨年度に引き続き実施し、取り組みの拡充を図った。</p> <p>また、RYSの取組みで、大阪マラソンのボランティアにも49名の生徒が参加した。</p> <p>○クラブ活動は、週3日間という限られた時間・施設の中での活動ながら、校外の公式戦にも積極的に参加し、成果をあげている。</p> <p>○体育祭や文化祭は本校の伝統行事として続いてきている。今年度からは、中等祭として6月上旬に2日連続で開催した。2日目の体育祭は雨天のため縮小したプログラムで行った。他の行事も、生徒の協調性を育むべく、事前・事後指導を丁寧に行った。各行事の反省をしっかりと行い次年度に活かしていきたい。また、今後の学級減に伴い、更なる見直しが必要である</p>
	<p>4. 積極的な情報発信と保護者との連携</p> <p>(1) 保護者との信頼関係の構築</p>	<p>私立学校は校区を持たないため、保護者への情報発信が信頼関係を築いていくうえで大切な要素となる。</p>		<p>私立学校にとって、在校生の保護者が学校の良さをアピールしてくれることが最大の募集活動と言える。そのためにも、学校の様子を情報発信するとともに、保護者の信託に応えた学校づくりをしていくことが大切である。</p>

保 護 者 に 信 頼 さ れ る 学 校 づ く り	(2)進路情報などの積極的な情報発信 (3)防災への取り組み	<p>防災訓練等の安全生活に対する取り組みも緊急の課題であるという認識が必要である。</p> <p>(1)ホームページの充実およびタイムリーな情報発信</p> <p>(2)保護者との連携強化</p> <p>(3)防災意識の向上</p>	<p>(1)保護者アンケート「情報発信」の肯定回答を80%以上にする。</p> <p>(2)保護者アンケートの「この学校に入学させてよかった」という満足度を70%以上とする。</p> <p>(3)防災意識を向上させる</p>	<p>○アンケート1「学校のホームページは充実しており必要な情報を得ることができる」の肯定回答をした保護者</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>前期課程</td> <td>全体74%</td> <td>1年75%</td> <td>2年74%</td> <td>3年74%</td> </tr> <tr> <td>後期課程</td> <td>全体67%</td> <td>4年64%</td> <td>5年64%</td> <td>6年69%</td> </tr> </table> <p>年々、家庭におけるインターネットの環境も整い、スマホも急激に普及している。学校の様子を情報発信するHPの役割は年々大きくなっている。</p> <p>どの学年も留保回答が15%前後あり評価指標に届いていない。さらに情報発信できるよう、HPを整理し、常に新しい情報を発信するよう努め、保護者に周知する仕掛けが必要である。</p> <p>授業参観や保護者会を設定し、また個別に3者面談を学期に1回開催しているが、さらに情報を保護者に提供するように努める。</p> <p>○アンケート2「入学させてよかった（知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい）」と思う」の肯定回答した保護者</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>前期課程</td> <td>全体55%</td> <td>1年57%</td> <td>2年55%</td> <td>3年53%</td> </tr> <tr> <td>後期課程</td> <td>全体54%</td> <td>4年52%</td> <td>5年45%</td> <td>6年64%</td> </tr> </table> <p>全体として、昨年度も同様で評価指標を下回っている。特に、5年生で数字が大きく下回っている。明確な否定の理由を持っておられる保護者が多いと思われる。数年引き続いている生活指導の事案に対する取り組みの甘さが原因と考えられる。今年度は、生活指導の大きな事象はなかったが、今までの説明不足は大いに反省すべき点である。</p> <p>本校は、例年在校生や卒業生の弟妹が数多く入学されていることから、着実に信頼を得ていくことは非常に大切である。全体として評価指数を達成していくためにも、さらに丁寧な対応が必要である。教育課程や学習指導・進路指導生活指導等すべての教育活動においてその要因を分析し、さらに信頼度を高めていく必要がある。</p> <p>○防災への取り組みは、高校・附属中との合同避難訓練の他、住吉区役所や住吉消防署と連携し3年生が防災研修を行っている。今後一層、公的な機関とも連携を図る必要がある。</p> <p>また、本校は大和川以南からの通学者が約30%在籍している。豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難になる生徒が多く出ることも予想され、昨年度より各自が防災セットを購入し教室に保管している。</p>	前期課程	全体74%	1年75%	2年74%	3年74%	後期課程	全体67%	4年64%	5年64%	6年69%	前期課程	全体55%	1年57%	2年55%	3年53%	後期課程	全体54%	4年52%	5年45%	6年64%
	前期課程	全体74%	1年75%	2年74%	3年74%																			
	後期課程	全体67%	4年64%	5年64%	6年69%																			
前期課程	全体55%	1年57%	2年55%	3年53%																				
後期課程	全体54%	4年52%	5年45%	6年64%																				